シラバス　国語科　（平成19年度）

学科	学年	科目［単位数］	担当者
全学科	１学年	国語総合［４］	勝本　宏昭

目標など
・国語に関する基礎知識を身につけ、我が国の伝統・文化に対する関心を高める。
・文章読解を通して、すべての学習の基本となる読解力や論理的思考力などを養う。
・言語に関する基礎事項に習熟し、話す・聞く・書くなどの表現への意欲を高める。

学期	単元名	学習内容
一学期	【オリエンテーション】 授業、図書室	・国語学習の目的・内容・方法を理解する。副教材の使用法を理解する。 ・図書室の使い方を理解する。
	【話す聞く】スピーチ 「自己紹介」	・メモを作成し、クラス全員の前で、自己紹介をする。
	【随想一】 隣の校庭	・筆者の日常の体験から生まれたものの見方や考え方を理解する。
	【古文一】 児のそら寝	・古文と現代文の違いを知り、古文を読む基礎を学ぶ。 ・説話のおもしろさを通して、古文の世界に親しむ。
	【古文一】 古文のしるべ①	・「現代仮名遣い」と「歴史的仮名遣い」の違いを知る。 ・古語と現代語の、意味や用法の違いを知る。
	【漢文一】　訓点　　格言	・漢文の特色を知り、漢文の読み方の基礎を学ぶ。 ・「格言」を読んで、漢文の世界に親しむ。
	【漢文一】 守株　五十歩百歩　蛇足	・漢文の特色を知り、漢文の読み方の基礎を学ぶ。 ・音読を積極的に行う。 ・「故事」を読んで、漢文の世界に親しむ。
	【古文一】 季武が従者、 主の矢先をはづすこと	・古文と現代文の違いを知り、古文を読む基礎を学ぶ。 ・説話のおもしろさを通して、古文の世界に親しむ。
	【小説一】 とんかつ	・小説の文章に親しみ、話の展開を通して、そのおもしろさを読み取る。 ・情景や人物の心情を、表現に即して読み味わう。
	【短歌・俳句】 その子二十 夏嵐	・短歌・俳句に親しみ、その表現の特色を知る。 ・優れた短歌・俳句を詠み味わい、鑑賞力を養う。
二学期	【話す聞く】スピーチ 「夏休みの思い出」	・メモを作成し、聞き手に伝わるように発表する。 ・正しく聞き取り、相互評価をする。
	【詩】　夏の姿 二十億光年の孤独 冬が来た	・詩に親しみ、その表現の特色や詩の言葉の微妙なはたらきを知る。 ・人生を主題とする詩を味わい、読み比べて、読みを深め、鑑賞力を養う。
	【小説一】 海の方の子	・少し長めの小説の場面展開と登場人物の心理変化を的確に理解する。 ・会話における登場人物の心理変化を理解する。
	【古文二】『徒然草』 つれづれなるままに 亀山殿の水車 仁和寺にある法師	・古文の表現に慣れ、内容を理解する力を養う。 ・兼好のものの見方や感じ方に関心を持つ。
	【小説二】 羅生門	・主題をとらえ、人間の心理について考えを深める。 ・虚構の仕組みを考え、効果的な表現を味わう。
	【表現】言葉とその周辺	・慣用表現やことわざの正確な意味を調べ、理解する。
	【評論一】 おカネでは買えぬもの	・文章を、その論理や構成に留意して、読む力を養う。 ・全体の構成を把握し、筆者の主張を考える。
三学期	【小説三】 沖縄の手記から	・場面ごとの登場人物の心情を読み取る。
	【古文二】『徒然草』 高名の木登り 奥山に、猫またといふものありて	・古文の表現に慣れ、内容を理解する力を養う。 ・兼好のものの見方や感じ方に関心を持つ。
	【古文三】 折々のうた	・人々に親しまれてきた詩歌を読み味わい、鑑賞する力を養う。 ・詩歌に表れた日本人のものの見方、感じ方の伝統を知る。

成績評価	各考査・課題テストの点数、課題・ノートなどの提出状況、授業中の取り組みや出欠の状況を踏まえ、総合的に評価する。
教科書 使用教材・副教材	・ 教科書「新編国語総合」（東京書籍） ・「クリアカラー国語便覧」（数研出版）

シラバス 地理・歴史科（平成19年度）

学科	学年	科目[単位数]	担当者
全学科	２年	世界史Ａ［２］	河口　智洋

目標など
・混迷する世界情勢の中で世界の歴史的背景を正しく認識し、現代の社会の動きに対して適切な判断をできる有権者としての能力を高める。

	単元名	学 習 内 容
1	オリエンテーション	・授業への取り組み方を理解する。 ・世界史を通して学ぶことを理解する。
	第１部　序章 人類のはじまり	人類の登場と、農耕牧畜による食料生産を基礎として文明を築き歴史時代が形成されていく過程を理解する。
	第１部　１章 東アジア世界	東アジアの風土と諸民族、封建制度、漢字文化圏、儒教思想、律令体制、文治主義、国際関係（冊封体制）などを通して、日本を含む東アジア世界の特質を理解する。
	第１部　２章 南アジア世界	南アジアの風土と諸民族、カースト制、仏教の成立、ヒンドゥー教、イスラームの影響などを通して、南アジア世界の特質を理解する。
	第１部　３章 東南アジア世界	自然環境や地理的位置に着目し、南アジア文明と中華文明のはざまで強く影響を受けながら、それぞれの地域で多様な社会・文化を築いていった東南アジア世界の特質を理解する。
	第１部　４章 イスラーム世界	中東の風土と諸民族、オリエント文明・イラン文明の伝統にふれ、基層となる中東世界の特徴を把握し、イスラームの成立と拡大・分裂などを通して、イスラーム世界の特質を理解する。
	第１部　５章 ヨーロッパ世界	ヨーロッパの風土と諸民族、ギリシア・ローマ文明の伝統、キリスト教の発展、封建社会などを通して、ヨーロッパ世界の特質を理解する。
	第１部　６章 南北アメリカ	南北アメリカの風土と先住民にふれ、ヨーロッパが進出する以前の新大陸において独自の文化が築かれていたことを理解する。
	第１部　７章 ユーラシアの交流圏	８世紀以降の諸地域世界の交流の深まりにふれ、ユーラシア規模の交流圏の成立とそれを支えた都市や港のネットワークについて、ユーラシアを舞台に展開された海域世界、遊牧社会、地中海海域、東アジア海域を具体例として理解する。
	第２部　１章 繁栄するアジア	アジアのティムール、オスマン、ムガル、明、清などの諸帝国の政治と社会にふれ、この時期に安定した支配と経済の繁栄を背景に、諸帝国が文化の黄金時代を迎えたことを理解する。
	第２部　２章 大航海時代を迎えるヨーロッパ	ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓、主権国家体制の成立などにふれ､16世紀からの世界の一体化への動きと新たなヨーロッパの枠組みとなった主権国家体制について理解する。
2	第２部　３章 ヨーロッパとアメリカの諸革命	産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立、拡大する貿易活動などを通して、西ヨーロッパとアメリカに産業社会が成立し、市民社会及び国民国家の形成が進行したことを理解する。
	第２部　４章 自由主義・国民主義の進展	19世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会を通して、自由主義と国民主義が進展していく様子とアメリカ文明の内容について理解する。
	第２部　５章 アジア諸国の動揺	オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊などを通して、世界市場の形成を背景にしたヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況、植民地化と従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容など、アジア諸国の同様の様子を理解する。
	第２部　６章 東アジアの大変動	アヘン戦争やアロー戦争などの西洋の衝撃により、冊封=朝貢体制を中心とする伝統的な国際秩序が崩壊していく過程を通して、ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東味か諸国の状況、半植民地化や従属下の過程での抵抗と挫折、その中での日本の対応など、東アジアの大変動の様子を理解する。
	第３部　１章 現代世界のめばえ	様々な社会の変容と国民国家の形成を経て始まる20世紀という時代の特質を理解し、ヨーロッパ諸国による他地域の植民地化をめぐる競合と人口移動から世界の支配、従属関係を伴う社会の変容を理解する。
	第３部　２章 第１次世界大戦がもたらしたもの	第１次世界大戦と総力戦としての様相、戦争と革命による国際秩序の変化、アメリカ大衆生活とその波及を通して､20世紀初頭の変化の様相を理解する。
3	第３部　３章 “民族自決”を求めて	インド・中東及び東アジアの民族運動を通して、“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。
	第３部　４章 経済危機から第２次世界大戦へ	第２次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解し平和の意義などについて考察する。また前章と合わせて20世紀前半の国際政治の流れを概観し、国際関係の変遷と社会の特質を理解する。
	第３部　５章 冷たい戦争と国際社会の変化	第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。
	第３部　６章 地域社会の到来 21世紀の課題を考えよう	1970年代移行の市場経済の世界化や地球規模での問題の出現を理解し、日本が世界の諸国、諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向などについて考察する。 冷戦終結後の世界で起こった地域紛争の原因や歴史的背景を追究し、国際社会の変化や国民国家の課題などについて考察する。また、現代の科学技術の人類への寄与と課題を追究し、人類の生存と環境、世界の平和と安全などについて考察するとともに、国際的な交流と強調の必要性を認識する。自ら課題を見つけ、自ら調べて、レポートにまとめて報告したり発表したりする。
成績評価		・出席状況、授業態度、提出物、定期考査により評価する。
教科書 使用教材・副教材		・明解世界史Ａ　最新版　（帝国書院） ・最新世界史図説　タペストリー　五訂版　（帝国書院）

シラバス 地理・歴史科（平成19年度）

学科	学年	科目[単位数]	担当者
全学科	１学年	地理Ａ[２]	河口　智洋

目標など
　現代世界の地理的な諸課題を地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
・身近な情報を地理情報として活用することに関心を持ち、意欲的に取り組んでいる。
・身の回りにある様々な情報を、地理情報化する技能を身につける。
・世界各地の情報から、それぞれの地域の地理的環境、歴史的環境を通して多面的・多角的に考察する。

	単元名	学習内容
1	１部　つながりを深める世界の理解のために １章　球面上の世界の　とらえ方	「旅行」を手がかりに生徒が世界について概観し、地理学習に興味・関心を持つ。 緯度・経度のしくみと球面上の位置関係を正しく理解する。 グリニッジ標準時の定義を理解して時差の計算方法とそのしくみを正しく理解する。 平面で表す世界地図と球面で表す地球儀それぞれの特性をとりあげ、距離・方位・面積などの違いを正しく理解する。 国家の領域と国境の定義と日本の国境の現状について理解する。また世界各地の国境の事例から国境のもつ意義を考察する。
	２章　結びつきを強める現代世界	日本と世界の航空交通網の現状と変化を把握し，航空交通網の結びつきには地域差があることを理解する。 通信技術と通信網の発達が現代世界に与える影響を考察し，通信の発達には南北の格差があることを理解する。 食料品の生産や工業製品の製造は国際分業に大きく依存していることを理解し、日本と世界との結びつきを考察する。 世界の結びつきについて，世界のおもな国際機構の目的や活動を理解する。
	選択章A　多様さを増す人間行動と現代社会	余暇の過ごし方にみられる地域性や地域差について考察し、多様性を増す人間行動を理解する。 消費行動にみられる地域性や地域差について考察し、多様性を増す人間行動を理解する。
2	２部　世界の多様性の理解のために １章　生活に影響を及ぼす気候	自然環境と社会環境が人々の生活に多様性をもたらすことについて理解する。 世界各地の生活と気候の密接な結びつきについて理解し、気候要素についての知識を身につける。 ケッペンの気候区分を指標とした世界各地の気候の特徴をとらえ、世界の気候が多様であることを理解する。 熱帯の生活の特色を、四季の変化がなく年中高温・多湿な気候の特徴と関連づけて理解する。 オアシスの事例をとおして、乾燥帯の生活の特色を、降水量の少ない気候の特徴と関連づけて理解する。 地中海性気候の事例をとおして、温帯の生活の特色を、気候の特徴と関連づけて理解する。 亜寒帯の生活の特色を，厳しい自然環境や気候の特徴と関連づけて理解する。
	２章　生活に影響を及ぼす地形	地震とその発生のメカニズムを理解することにより、世界の大地形の分布とその成因について理解する。 河川流域や海岸にみられる地形を取り上げ、小地形の特徴と人間の諸活動との関連について考察する。
	３章　多様な生活をもたらす社会環境	世界各地の多様な生活・文化が、歴史や民族といった社会環境の影響を受けていることを理解する。 世界の人々の生活・文化に大きな影響を及ぼしている宗教について、おもな宗教の分布と生活様式を理解し，相違点について考察する。 世界各地の人々の生活・文化に影響を及ぼす言語を地理的に考察し、国内で複数の言語が使用される多民族国家の状況を理解する。 世界各地の食事に着目して世界の農業と食文化のかかわりを考察し、世界の農業地域が自然環境の影響を受けいていることを理解する。 世界各地の工業化による生活の変化をとらえ、変化をもたらした世界の工業の特色を理解する。 グローバル化がもたらす人々の生活への影響を考察し、現代世界のグローバル化による生活・文化の地域的な多様性を理解する。
	４章　多様な諸地域の生活・文化	アメリカ合衆国の移民の歴史と生活を理解し、世界各地から人々が移住する要因について考察する。 先端技術産業で世界をリードするアメリカ合衆国の工業地域と世界的な生産量を誇るアメリカ合衆国農業地域について理解する。 アメリカ合衆国の経済や文化が世界に大きな影響を与えている現状を理解し、その問題点を考察・追究する。 古くから人や物資の交流・交易が盛んな東南アジア地域の歴史や，各国の多様な生活・文化について、共存という視点から理解する。 東南アジア地域の急速な工業化の背景と経済発展に伴う人々の生活の変化をとらえ、ASEANを軸にした各国の取り組みを理解する。 西アジアや北アフリカの多様な民族で構成されるアラブ民族について，宗教や言語の視点から生活・文化を理解する。 産油国の石油開発と産油国内の社会や人々の生活をとらえ、産油国がかかえる課題について考察する。 パレスチナ問題の歴史的背景や現状を理解し、民族紛争の解決方法について考察する。 ヨーロッパの生活・文化について，各国の言語や宗教・農産物の特色から、その多様性を理解する。 ＥＵ域内の人々のくらしや産業の変化から，拡大を続けるＥＵの経済的な特色を考察する。 ＥＵが拡大することによって生じる現象を理解し，それによって生じる課題を考察する。
3	３部　地球的な課題の解決のために １章　地球規模で広がる課題	地球的課題を類型化して理解し、それぞれの問題の関連性や社会的背景、解決に向けての取り組みや国際協力について考察する。 人口問題について、世界全体の人口増加や先進国に見られる少子高齢化などの視点から総合的に理解する。 都市への人口集中の背景や都市の抱える人口問題について概観し、世界各地の都市への人口移動と都市問題の関連について理解する。 多くの住民が栄養不足になっている地域や国家の現状をとらえ、世界の食料生産と分配について考察する。 資源やエネルギーの消費に関する国際的な不均衡を、生産と消費という視点から考察する。 地球規模で発生するさまざまな環境問題について、人間の諸活動とのかかわりを考察して、環境問題のメカニズムについて理解する。
	選択章D　近隣諸国と日本が取り組む課題	近隣諸国の環境問題について、日本が問題解決に果たす役割を理解し、国際的な共存について考察する。 日本が世界各国とともに取り組んでいる国際協力を理解し、持続可能な社会を目指す今後の世界のあり方について追究する。
成績評価		出席状況、授業態度、提出物、定期考査、小テストにより評価する。
教科書 使用教材・副教材		教科書　世界を学ぶ　高校生の地理A　帝国書院 新詳高等地図　帝国書院 副教材　図説地理資料　世界の諸地域NOW2007　帝国書院

シラバス 公民科（平成19年度）

学科	学年	科目[単位数]	担当者
全学科	3学年	現代社会[２]	河口　智洋・金岡　正和

目標など
・現代社会の基本的な問題について、様々な情報を利用し公正な判断をできるようにする。

・良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

学期	単元名	学　習　内　容
1	第３章 1　民主政治とは	民主政治の原理がいかにして形成されたかを、ホッブズ・ロック・ルソーなどの思想が影響を宛得たヨーロッパの市民革命を通して理解する。 民主政治の仕組みについて、代表者と役割と国民の意識の大切さを基本として、各国の政治システムの違いを通して理解する。
	2　日本国憲法と基本的人権	大日本帝国憲法の成立の経緯や特徴について明らかにし、その原理を知るとともに問題点などについても理解する。 日本国憲法の成立過程や憲法制定の意義を理解する。 日本国憲法の三本柱を明確にし、国の最高法規としての役割を理解する。 基本的人権の概念を把握し、現代の民主政治において最高の目的が人間の尊厳の確立にあることを理解する。 国家権力の干渉を排除し、人間の自由を確保する要求から生まれた自由権的基本権に続いて、20世紀には人間らしい生活を営む権利である社会権的基本権が誕生した事を理解する。
	3　国会・内閣・裁判所	国会の役割や権限を理解し、国会の働きの重要性について考えるとともに、構成や運営の仕組みについて考察し、国会の課題について考える。 政党政治と国会の関係について理解し、近年の政党政治の変化について考える。 日本の議院内閣制の仕組みについて理解し、その課題について考えるとともに、内閣の権限を理解し、行政の民主的統制をはかるためには何が必要かを考える。 司法権は国民の権利を保障し、「法の支配」を実現する役割を担っていることを理解するとともに、国民の権利を保障し、公正な裁判を実現するための制度について考える。
2	4　政治参加と民主政治	民主政治の基本でもある世論の意義について考え、世論の担い手である市民がマスメディアの報道に依存している事実を理解するとともに、マスメディアの実態や問題点についても理解する。 選挙制度の仕組みについて原理的な諸点を理解するとともに、選挙の公平性を保つ仕組みとその重要性について考える。 「民主主義の学校」と呼ばれる地方自治の意義を理解し、現在の地方自治の抱えている問題点などを中央政府との関係のなかで考え、これからの地方自治のあり方について理解する。 戦後の独立を契機として日本とアメリカの関係を中心に、戦後の日本の安全保障のあり方と、憲法との関係、政府の見解などを比較し考えるとともに、今後の近隣諸国や国連との関係などの課題について考察する。 民主社会の二大原理である自由と平等の尊重がどのようなものであり、そのバランスをいかに取っていけばよいかを理解するとともに、よりよい社会をめざすときに、法律やルールの重要性ばかりでなく、公共性の精神のあり方について考える。
	第４章 1　国境を越える経済	経済のボーダーレス化が進展している実態について考察し、国際分業の進展や多国籍企業の活動を通して、経済のグローバル化・ボーダーレス化が今日の社会に与える影響について理解する。 現在の国際貿易のあり方について理解するとともに、外国為替相場が変動する理由を考察し、その変動が国内経済へ及ぼす影響について考察する。 第二次世界大戦後の国際経済がどのような基本原則に基づいて運営されてきたのかを考察し、その過程と現状を理解する。 先進国相互の強調が必要になった理由について考察する。 1980年代に進展した金融のグローバル化について、その基本的な特徴を理解する。
	2　ボーダーレス化のなかの地域	冷戦終結後世界各地で経済の地域統合が進んでいる事実を具体的に理解するとともに、地域統合が行われ、それが進展する原因を考察する。 計画経済の基本概念を把握した上で、その問題点を整理し、ソ連や東欧の市場経済化の流れと現状を理解する。 南北問題の意味と現状を把握し、その歴史的要因・経済構造的要因を考察するとともに、OPEC諸国やアジアNIESの概念と現状を認識し、その一方でLDCが多数存在する現状を理解する。
3	3　国際社会と戦後の動き	国際社会の成り立ちとその発展過程をふまえ、国際社会の仕組みについて理解する。 力の論理が展開する国際社会において、勢力均衡や集団安全保障政策によって平和と安全をどのように具現化しようとしてきたのかその経緯とそれぞれの特質を理解する。 国際連合による安全保障体制の仕組みについて、とりわけPKOの意義について理解するとともに、その他の諸機関の種類と活動内容について学び、国連の働きを幅広く理解する。
	4　国際社会の課題	戦争や紛争を避け、平和を維持するためには、国家間・政府間の関係のみならず、民間レベルでの関係も深め相互理解を進めること、また国内的には民主主義的な政治が行われることが重要性を理解する。 現在地球環境が急激に悪化している現状を認識し、その原因が世界人口の急増と人間の経済活動の拡大にあることを認識し、その解決の糸口を考察する。 民族と何かを理解するとともに、民族問題が生じる原因について具体例を通じて考察し理解する。 人権保障に向けて国際的な取り組みについて理解し、今後様々なレベルでどのような努力が必要かを考察する。
成績評価		出席状況、授業態度、提出物、定期考査により評価する。
教科書 使用教材・副教材		教科書　　現代社会　（東京書籍） 副教材　　新編テーマ別資料現代社会２００６、　現代社会ワークノート

シラバス 数学科（平成19年度）

学科	学年	科目[単位数]	担当者
全学科	１年	数学Ⅰ［３］	川平 陽子　　小西 秀太郎

目標など

方程式と不等式、二次関数及び図形と計量について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

学期	単元名	学習内容
1	プレリュード	・数や式の計算、方程式の解法など中学校における既習事項を復習する。
	第１章　数と式 １節　整式	・文字を含んだ式の約束を理解し、正しい文字式の扱い方を学ぶ。 ・整式の加法・減法・乗法の仕組みを理解し、計算する。 ・乗法公式や因数分解の公式を理解し、整式の展開や因数分解をする。
	２節　実数	・自然数、整数、有理数、無理数の意味を理解し、実数を分類する。 ・根号を含む式の基本的な計算をする。
	第２章　方程式と不等式 １節　１次不等式	・不等号の意味を理解し、数量の間の大小関係を不等式で表す。 ・不等式の性質を使って不等式を変形し、不等式を成り立たせる数の範囲を求める。 ・１次不等式を文章題に応用したり、連立１次不等式を解く。
2	２節　２次方程式	・因数分解や平方完成の方法で２次方程式を解く。 ・解の公式を理解し、解の公式を用いて２次方程式を解く。 ・２次方程式を具体的な事象の考察に活用する。
	第３章　２次関数 １節　２次関数とそのグラフ	・関数の概念を学び、１次関数のグラフをかく。 ・２次関数のグラフの特徴を理解し、グラフをかく。 ・一般形で表された２次関数を標準形に変形することで、そのグラフをかく。
	２節　２次関数の値の変化	・２次関数の最大・最小についてグラフを利用して理解し、具体的な問題に活用する。 ・２次関数のグラフを利用して２次方程式や２次不等式を解く。
3	第４章　図形と計量 １節　鋭角の三角比	・鋭角に対する正接、正弦、余弦の意味を理解し、具体的な問題に活用する。 ・三角比を利用した様々な問題を解く。 ・三角比の相互関係を理解し、１つの三角比の値から他の２つの三角比の値を求める。
	２節　三角比の拡張	・座標を用いて三角比を考えることにより、0°から180°までに拡張した三角比の意味を理解する。 ・鈍角の場合も鋭角のときと同様に三角比の相互関係が成り立つことを理解し、それらを活用する。
	３節　図形の計量	・三角形の辺の長さや角の大きさから、三角形の面積を求める。 ・三角形の角の正弦の値と対応する辺の長さとの関係、さらに外接円の半径との関係を調べ、正弦定理を導き、図形の計量に定理を活用する。 ・三角形の角の余弦と辺の長さとの関係を調べ、余弦定理を導き、図形の計量に定理を活用する。

成績評価	・日々の学習活動の観察、課題・ノート等の提出物、小テスト、定期考査、および生徒本人による自己評価、出席状況等を通して総合的に評価する。
教科書 使用教材・副教材	・新数学Ⅰ（東京書籍） ・改訂版ニューファースト新数学Ⅰ（東京書籍）

シラバス 理科（平成19年度）

学科	学年	科目[単位数]	担当者
全学科	１学年	理科総合Ａ［２］	中谷　晋輔

目標など
　自然の事物・現象に関する観察、実験などを通して、エネルギーと物質の成り立ちを中心に、自然の事物・現象について理解させるとともに、人間と自然との関わりについて考察させ、自然に関する総合的な見方や考え方を養う。

学期	単元名	学習内容
1	序章　自然の探求	観察・実験などをとおして自然の事物・現象をエネルギーや物質の変化としてとらえ、自然界には規則性や法則性が存在することを理解する。
	第１部　物質と人間生活 第１章　物質の構造	混合物、純物質の区別を学び、身近な物体について区別できるようになる。 物質が原子、分子、イオンから構成されていることを理解し、その特性を覚え、物質を原子量、分子量、式量を用いて定量的に扱えるようになる。
	第２章　物質の変化	酸・塩基とイオンの関係を理解しイオンが反応して中和が起こることを電離式で表し、物質量を用い組織的に理解する。 酸化、還元反応を酸素・水素・電子の授受によって起こることを説明し、定義的に理解する。 イオン化傾向を覚え、電池が電気分解によって起こることを理解する。
2	第３章　物質の利用	金属、高分子化合物、セラミックスの組成、結合を知り、結合の違いにより、性質が異なる事、又、エネルギーが必要になることを理解し、現代社会における微生物の活用の研究について学ぶ。 環境と生物のつながりを学び、化学薬品の環境に与える影響を組織的に理解し、課題や目標について考察する。
	第２部　エネルギー・資源と人間生活 第１章　力学的エネルギー	中学校で学習した等速直線運動について復習し、加速のある運動に関して新たな公式を学ぶ。 力と運動に関する法則、力学的エネルギーを導き出すために必要な力学の基本について学び、力学的エネルギー保存の法則の観点から仕事とエネルギーの関係を定量的に理解する。
	第２章　いろいろなエネルギー	熱エネルギー、電気エネルギーについて学び、力学的エネルギーを交えたいろいろなエネルギーの変換を生活用品などを用いて組織的に表し、エネルギーの全体としての保存を理解する。
3	第３章　資源の開発と利用	過去から現在までのエネルギーの移り変わりを学び、現在利用されているエネルギーのしくみを理解する。 太陽のエネルギーや核エネルギーなどの多くのエネルギー資源が、発電や熱源として生命活動や人間生活のエネルギーの源として利用されていることを学び、核エネルギーの利用法や、研究、危険性、環境への影響について総合的に理解する。
	第3部　科学技術の進歩と人間生活 第1節　科学技術の進歩と課題	これまでの科学技術の進歩を流れとしてとらえ、これからの科学技術について考察する。 エネルギーの開発による、医療技術、情報技術、宇宙開発についての成果、課題を理解し、知識を身につける。
	第2節　課題研究の進め方	課題研究への取り組み方を例を用いて学習し、レポート作成、発表を行うことによって幅広い知識、視野を得る。

成績評価	定期考査、授業への取り組み、提出物、小テスト、実験レポートなどをもとに総合的に評価する。
教科書 使用教材・副教材	高等学校理科総合Ａ改訂版（啓林館）

シラバス　理科　（平成19年度）

学科	学年	科目［単位数］	担当者
全学科	２学年	物理Ｉ［３］	中谷　晋輔

目標など
　物理的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、物理学的に探求する能力と態度を育てると共に基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を育成する。

学期	単元	学習内容
1	第Ⅳ章　電気 １節　生活の中の電気	電流、電圧、抵抗、電解、磁界などの基本的な概念を理解し、現代社会においてどのように活用されているかの基礎を学ぶ。 直流と交流の違いを学び日常生活での活用例や注意点を物理的に理解する。
	第Ⅳ章　電気 ２節　電波と情報通信	電波、放電の基本的な概念を理解し、知識を身につける。 電波の信号としての授受が生活のいたるところに存在し、どのように活用されているかを学び、基礎的な信号や回線についてを理解する。
	第Ⅰ章　力と運動 １節　物体の運動	速度、加速度、速度の合成、等速直線運動や等加速度直線運動に関する基本的な概念や公式を理解し、知識を身につける。 重力加速度を学び、地球上における物体の等加速度運動を理解する。
	第Ⅰ章　力と運動 ２節　力と運動の法則	いろいろな運動が物質にはたらいている力によって起こることを理解し、観察、実験などを通して弾性力、浮力、圧力、力の合成、分解、運動の３法則、摩擦力についての基本概念や法則についての知識を身につける。
2	第Ⅱ章エネルギー １節　仕事と力学的エネルギー	仕事、仕事の原理、仕事率、エネルギーの概念を理解し、エネルギーは仕事量と等しいこと、重力や弾性力のみがはたらく場合、力学的エネルギーは保存されることを用いた基礎的な問題を解く力を身につける。
	第Ⅱ章エネルギー ２節　熱とエネルギー	絶対温度の定義を学び、セルシウス温度との違いを理解する。 観察、実験などを通して熱、比熱、熱容量、熱量保存などの基本概念や法則について理解し、知識を身につける。
	第Ⅱ章エネルギー ３節　電気とエネルギー	電気の仕組みを理解し、銅線内の電子の運動を模式的に理解する。 電流によるエネルギーの発生を学び、電流や電圧との関係を数式として理解する。 抵抗の接続による合成抵抗を求めるがことができ、電圧計、電流計の接続の仕方などを理解する。
3	第Ⅲ章　波動 １節　波の性質	波を表す一般的な公式を理解し、横波、縦波の違いや波の重ねあわせと独立性を考慮しながら波の表示、縦波の横波表示を理解する。
	第Ⅲ章　波動 ２節　音波	音が縦波であり、波の性質をもつことを用いて、音の干渉、うなり、弦の振動や気柱の共鳴、ドップラー効果などの現象について理解する。
	第Ⅲ章　波動 ３節　光波	光が横波であること、光に速さがあること、反射や屈折などの光の性質についての公式を理解し、レンズ等におこりる現象を作図によって表す。

成績評価	授業への取り組む態度、定期考査、実験レポート、プリントの提出、小テストなどをもとに総合的に評価する。
教科書 使用教材・副教材	高等学校改訂新物理Ｉ（第一学習社）、授業用に作成したプリント

シラバス 理科（平成19年度）

学科	学年	科目[単位数]	担当者
全学科	３学年	物理Ⅰ［２］	朝野　敏彦

目標など

物理的な事物・現象についての観察や実験などを行うことにより、自然に対する関心や探求心を高めて科学的な自然観を養う。また、基本的な概念や原理・法則の理解を通して、科学の方法を身につけ、さらには科学的に探求する能力や態度も育てる。

学期	単元名	学習内容
1	Ⅲ章　エネルギー ３節　電気とエネルギー ①電流 ②電気抵抗 ③直流回路 ④電流と仕事 ⑤エネルギーの変換	Ⅲ章　エネルギー ３節　電気とエネルギー ジュール熱を中心に扱い、電気エネルギーと熱エネルギーの関係を考察する ①導線中の自由電子の動きは複雑であるが、単純化し平均の速度を導入するモデルにより理解する。専門科目で既習済みであるが、物理的な側面を学習する。 ②オームの法則と電圧降下について学び、抵抗のより本質的な理解のため、抵抗率を学ぶ。 ③抵抗の接続と電流計・電圧計の使い方を学ぶ。（演示実験：実際の接続） ④金属中の自由電子の動きから、電気エネルギーが熱エネルギーに変わることを学ぶ。また、電力や電力量とその単位について学び、日常生活との関連を学ぶ。 ⑤熱力学第２法則とエネルギー保存則を学ぶ。
	Ⅳ章　波動 １節　波の性質 ①身の回りの波 ②波の表し方 ③波の重ね合わせ	Ⅳ章　波動 １節　波の性質 波動に共通した基本的な性質について学ぶ。 ①私たちの周りにあるさまざまな波が、振動が次々に伝わる現象であることを学ぶ。さらに、波の要素と波の形について学ぶ。（演示実験：ひもやスリンキーの波の観察） ②波の進行と振動の関係と横波・縦波について学ぶ。（演示実験：波動実験器、実習：横波・縦波の作図） ③重ね合わせの原理を学び、それを用いて波の干渉について理解する。（演示実験：水波の干渉、実習：干渉の作図）
2	④定常波と波の反射 ⑤波の伝わり方 ⑥波の反射・屈折 ２節　音波 ①音の速さと３要素 ②波としての音の性質 ③弦の固有振動 ④気柱の共鳴 ⑤ドップラー効果	④定常波のできる様子を観察や作図学習により生成過程を理解する。また、波の反射についても同様に扱い、自由端と固定端との反射の違いを理解する。（演示実験：定常波の観察・波動実験器、実習：定常波の生成の作図と反射波の作図） ⑤ホイヘンスの原理を学び、波の回折現象が説明できることを学ぶ。（実習：ホイヘンスの原理による回折の作図） ⑥波の反射・屈折がホイヘンスの原理で説明できることを学ぶ。さらに屈折の法則に発展させて定量的な計算も学習する。（実習：ホイヘンスの原理による反射・屈折の作図） ２節　音波 身近にある波として音について学習する。 ①音の媒質と速さについて学ぶ。また、音の３要素について学ぶ。（演示実験：ＰＣ用のオシロスコープの波形観察） ②音の回折・反射・屈折を学び、干渉やうなりについて学習する。（演示実験：おんさのＰＣ用のオシロスコープの波形観察） ③物体の固有振動と、弦の振動について学ぶ。（演示実験：振り子やつる巻きばねや定常波発生器の定常波の観察） ④閉管と開管の気柱の固有振動について学ぶ。（演示実験：気柱共鳴実験、実習：閉管と開管の固有振動の作図） ⑤ドップラー効果について学ぶ。（演示実験：携帯用ブザーの回転、実習：ドップラー効果の公式を作図を用いて導出）
3	３節　光波 ①光の進み方 ②レンズ ③波としての光 ④光の回折・干渉	３節　光波 身近にある波として光について、また、物理学における光の歴史について学習する ①光の速さ、光の反射・屈折、平面鏡による反射について学ぶ。（演示実験：プラスチックファイバーによる光の伝達） ②凸レンズと凹レンズとレンズ公式について学ぶ。（演示実験：光学台による結像の観察、実習：凸レンズと凹レンズの像の作図） ③偏光と光の分散とスペクトルを学ぶ。（演示実験：偏光板・偏光フィルムの実験、ガラス柱の全反射、ＣＤの観察） ④スリットによる光の回折・干渉と回折格子について学ぶ。また、薄膜の干渉にも簡単に触れる。（演示実験：ヤングの実験、シャボン玉の薄膜による干渉）

成績評価	授業に取り組む態度、定期考査、実験レポート、授業用プリント、出席状況などを総合的に判断して評価する。
教科書 使用教材・副教材	高等学校新物理Ⅰ（第一学習社）、授業用に作成したプリント

シラバス 保健体育科（平成19年度）

学科	学年	科目［単位数］	担当者
全学科	１学年	体　育［３］	伊井 広瀬 廣野 高見

目標など
ａ・健康や体力について知るとともに、各種の運動実践を通して体力の向上と健康の増進をはかる。
ｂ・運動技能の向上とともに、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。
ｃ・集団による運動実践を通して公正・協力・責任などの社会生活に必要な資質を身につける。
ｄ・健康の大切さを認識するとともに、生涯を通じて運動・スポーツに親しむ態度や能力を身につける。

学期	単元名	学習内容
1	※通年実施 体つくり運動 体育理論 集団行動	・体ほぐしの運動、体力を高める運動を行う。 ・スポーツの意義等について考える。 ・整列・点呼、隊列変更などについて練習する。
	新体力テスト	・８種目（長座体前屈、反復横跳、握力、立幅跳、上体起こし、２０ｍシャトルラン、５０ｍ走、ハンドボール投）の測定を実施。
	陸上競技	・短距離走（１００ｍ）
	バレーボール	・アンダーハンドパスやオーバーハンドパス、スパイクなどの基本的な技能や攻守における基本的なフォーメーションを身につける。
2	バドミントン	・クリア、スマッシュ、ドロップショットなどの基本的な技能やダブルスとシングルスでの正しいポジショニングを身につける。
	サッカー　※男子	・パス、シュート、ドリブル、ヘディングなどの正しい技術を身につける。また、作戦や戦術を考え、組織的な動きができるための判断力を身につける。
	バレーボール※女子	・サーブ、サーブレシーブ、トス、スパイク、スパイクレシーブなどの技能を身につける。また、三段攻撃に必要とされる各ポジションの動きを身につける。
	武道・ダンス選択 ・柔道	・相手の動きに対応した投げ技、固め技などの技能を身につける。
	・剣道	・相手の動きに対応した打突技能を身につける。
	・ダンス	・現代的なリズムダンスを通して、身体表現能力や創作能力を身につける。
3	バスケットボール ※男子、女子	・パスやドリブル、シュートなどの基本的な技能や攻守におけるフォーメーションを身につける。
	卓球　※女子	・フォアハンドやバックハンド、カットやドライブなどの基本的な技能やダブルスとシングルスの進め方の知識を身につける。
成績評価		・出席状況、意欲・態度、思考・判断、技能により総合的に評価する。

シラバス　保健体育科　（平成１９年度）

学科	学年	科目［単位数］	担当者
全学科	２学年	体　育［２］	伊井 広瀬 廣野 高見

目標など
ａ・健康や体力について知るとともに、各種の運動実践を通して体力の向上と健康の増進をはかる。
ｂ・運動技能の向上とともに、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。
ｃ・集団による運動実践を通して公正・協力・責任などの社会生活に必要な資質を身につける。
ｄ・健康の大切さを認識するとともに、生涯を通じて運動・スポーツに親しむ態度や能力を身につける。

学期	単元名	学習内容
1	※通年実施 体つくり運動 体育理論 集団行動	・体ほぐしの運動、体力を高める運動を行う。 ・スポーツの意義等について考える。 ・整列・点呼、隊列変更などについて練習する。
1	新体力テスト	・８種目（長座体前屈、反復横跳、握力、立幅跳、上体起こし、２０ｍシャトルラン、５０ｍ走、ハンドボール投）の測定を実施。
1	陸上競技	・短距離走（１００ｍ）
1	バレーボール※男子	・アンダーハンドパスやオーバーハンドパス、スパイクなどの基本的な技能や攻守における基本的なフォーメーションを身につける。
1	卓球 ※女子	・フォアハンドやバックハンド、カットやドライブなどの基本的な技能やダブルスとシングルスの進め方の知識を身につける。
2	ソフトボール※男子	・打撃、バント、ベースランニング、ゴロ・フライの取り方やスローイング、カバーリングの技能などを身につける。
2	バレーボール※女子	・アンダーハンドパスやオーバーハンドパス、スパイクなどの基本的な技能や攻守におけるフォーメーションを身につける。
2	バドミントンと卓球 ※男子選択	・バドミントンでは、クリア、スマッシュ、ドロップショットなどの基本的な技能やダブルスとシングルスでの正しいポジショニングを身につける。 ・卓球では、フォアハンドやバックハンド、カットやドライブなどの基本的な技能やダブルスとシングルスの進め方の知識を身につける。
2	バドミントン※女子	・クリア、スマッシュ、ドロップショットなどの基本的な技能やダブルスとシングルスの進め方の知識を身につける。
2	武道・ダンス選択 ・柔道 ・剣道 ・ダンス	・相手の動きに対応した投げ技、固め技などの技能を身につける。 ・相手の動きに対応した打突技能を身につける。 ・現代的なリズムダンスを通して、身体表現能力や創作能力を身につける。
3	バスケットボール	・パスやドリブル、シュートなどの基本的な技能や攻守におけるフォーメーションを身につける。

成績評価	・出席状況、意欲・態度、思考・判断、技能によりおこなう。

シラバス　保健体育科　（平成19年度）

学科	学年	科目［単位数］	担当者
全学科	３学年	体　育［２］	廣野　広瀬

目標など
ａ・健康や体力について知るとともに、各種の運動実践を通して体力の向上と健康の増進をはかる。
ｂ・運動技能の向上とともに、運動の楽しさや喜びを味わうことができる。
ｃ・集団による運動実践を通して公正・協力・責任などの社会生活に必要な資質を身につける。
ｄ・健康の大切さを認識するとともに、生涯を通じて運動・スポーツに親しむ態度や能力を身につける。

学期	単元名	学習内容
1	※通年実施 体つくり運動 体育理論 集団行動	・体ほぐしの運動、体力を高める運動を行う。 ・スポーツの意義等について考える。 ・整列・点呼、隊列変更などについて練習する。
1	新体力テスト	・８種目（長座体前屈、反復横とび、握力、立ち幅とび、上体起こし、２０ｍシャトルラン、５０ｍ走、ハンドボール投）の測定を行う。
1	陸上競技	・短距離走（１００ｍ）
1	球技選択 ・バスケットボール ・サッカー ・バレーボール ・卓球 ・バドミントン ・ソフトボール 以上より１種目選択	・バスケットボール、サッカー、バレーボール、卓球、バドミントン、ソフトボールから１種目選択する。 ・バスケットボールでは、相手との攻防の中でのボールを運び、シュートして得点するための基礎、基本技術の理解、連携プレーや個人の特性に応じた作戦の立案を通しゲームを行う。
2		・サッカーでは、集団技能や個人技能を発揮し、作戦や戦術を考える。組織力を活かしたゲームを行う。
2		・バレーボールでは、基本技術のパスやトス練習を行う。サーブ、レシーブ、スパイクの学習を通してバレーボールの技術を理解する。
2	※１０月に種目変更	・卓球、バドミントンでは、チームの課題や自分の能力に適した課題を持った練習を行う。身に付けた技能・作戦を生かしたゲーム展開を行う。
3		・ソフトボールでは、攻撃と防御の攻防をを行いながら、集団技能や個人技能を活用し、学習段階に応じた作戦を立てゲームを行う。
3	武道・ダンス選択 ・柔道	・相手の動きに対応した投げ技、固め技などの技能を身につける。
3	・剣道	・相手の動きに対応した打突技能を身につける。
3	・ダンス	・現代的なリズムダンスを通して、身体表現能力や創作能力を身につける。

成績評価	・出席状況、意欲・態度、思考・判断、技能を総合的に判断して行う。

シラバス　保健体育科（平成19年度）

学科	学年	科目［単位数］	担当者
全学科	１年	保　健［１］	伊 井　朋 幸

目標など
a・個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。
b・生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していくための資質や能力を育てる。

学期	単　元　名	学　習　内　容
1	「現代社会と健康」 1私たちの健康のすがた 2健康のとらえ方 3さまざまな保健活動 4生活習慣病と日常の生活行動 5喫煙と健康 6飲酒と健康 7薬物乱用と健康	・日本の健康水準について過去や諸外国との比較して理解する。 ・現代社会における健康の成立要因や条件について理解する。 ・行政や民間機関・国際機関などの様々な保健活動を理解する。 ・生活習慣病を防ぐ食事・運動・休養などのあり方を理解する。 ・喫煙にたいしての健康影響や問題、対策について理解する。 ・飲酒にたいしての健康影響や問題、対策について理解する。 ・薬物にたいしての健康影響や問題、対策について理解する。
2	8医薬品と健康 9感染症とその予防 10エイズとその予防 11健康にかかわる意志決定・行動選択 12意志決定・行動選択に必要なもの 13欲求と適応機制 14心身の相関とストレス 15ストレスへの対処 16自己実現	・医薬品の役割や正しく使うことのポイントを理解する。 ・感染症の現状とともに問題点や予防策について理解する。 ・エイズや性感染症の実態や予防、対策について理解する。 ・意志決定や行動選択の重要性とともに、現代の健康問題の特徴について理解する。 ・適切な意志決定や行動選択の必要性とともに、個人の行動を支援する社会づくりについて理解する。 ・人間の欲求の種類や欲求不満、適応機制について理解する。 ・心と体の働きの相関関係とストレスについて理解する。 ・ストレスの原因やさまざまな対処法について理解する。 ・自己実現の意義や達成する課程、条件について理解する。
3	17交通事故の現状と要因 18交通社会における運転者の資質と責任 19安全な交通社会づくり 20応急手当の意義とその基本 21心肺蘇生法 22日常的な応急手当	・交通事故の現状や特徴とともに事故の要因について理解する。 ・安全な運転をするための資質や事故に伴う責任と報償について理解する。 ・安全な交通社会に必要な法的な整備や施設設備を理解する。 ・応急手当の意義とその基本的な応急手当の手順を理解する。 ・心肺蘇生法の意義や原理とともに基本的な手順を理解する。 ・日常的な応急手当の手順や方法とともに適切な手当について理解する。

成績評価	出席状況や授業の取り組み状況（生徒個々の保健学習に対する関心・意欲・態度や知識・理解など）の他、課題やノートの整理、定期考査などで総合的に評価する。
教科書 使用教材 副教材	教科書　現代保健体育改訂版　（大修館書店） 副教科書　現代保健ノート改訂版　（大修館書店）

シラバス　保健体育科　（平成19年度）

学科	学年	科目［単位数］	担当者
全学科	２年	保　健［１］	広 瀬　昭 彦

目標など
- a　個人及び社会生活における健康・安全について理解を深める。
- b　生涯を通じて自らの健康を適切に管理し改善していくための資質や能力を育てる。

学期	単元名	学習内容
1	「生涯を通じる健康」	
	1　思春期と健康	・思春期における体の発達の特徴と行動心理面の特徴を理解する。
	2　性意識と性行動の選択	・性意識の男女差や性に関する情報が性行動に及ぼす影響を理解する。
	3　結婚生活と健康	・健康な結婚生活を営むための留意点などを理解する。
	4　妊娠・出産と健康	・受精から出産までの過程や妊娠出産期の健康について理解する。
	5　家族計画と人工妊娠中絶	・家族計画の意義や人工妊娠中絶が与える心身への影響について理解する。
	6　加齢と健康	・加齢にともなう心身の変化や中高年期を健康に過ごすための留意点を理解する。
	7　高齢者のための社会的取り組み	・高齢者の健康課題や高齢社会に対応した対策を理解する。
2	8　保健制度と保健ｻｰﾋﾞｽの活用	・保健行政の役割としくみやその活用法について理解する。
	9　医療制度と医療費	・医療保険のしくみについて理解する。
	10　医療機関と医療ｻｰﾋﾞｽの活用	・医療機関の選び方や医療ｻｰﾋﾞｽの活用方法について理解する。
	「社会生活と健康」	
	1　大気汚染と健康	・大気汚染がおこるしくみと健康への影響について理解する。
	2　水質汚濁と健康	・水質汚濁がおこるしくみと健康への影響について理解する。
	3　土壌汚染と健康	・土壌汚染がおこるしくみと健康への影響について理解する。
	4　健康被害の防止と環境対策	・環境汚染の防止・改善への対策について理解する。
	5　環境衛生活動のしくみと働き	・ゴミ処理の過程や上下水道の整備について理解する。
3	6　食品衛生活動のしくみと働き	・食品衛生管理の対策方法について理解する。
	7　食品と環境の保健と私たち	・食品の安全性確保やゴミによる環境汚染の対策について理解する。
	8　働くことと健康	・勤労と健康の相互関係や労働者の健康問題について理解する。
	9　労働災害・職業病と健康	・労働災害の防止対策や職業病と予防対策について理解する。
	10　健康的な職業生活	・職場の健康増進対策や日常生活における取り組みについて理解する。

成績評価	出席状況、授業態度、定期考査により評価する。
教科書 使用教材・副教材	教科書　現代保健体育（大修館書店） 現代保健ﾉｰﾄ（大修館書店）

シラバス　芸術科　（平成19年度）

学科	学年	科目［単位数］	担当者
全学科	１学年	音楽Ⅰ［２］	柳田　美香子

目標など
　音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

学期	単元名	学習内容
1	・校歌	・校歌を歌詞を見ないで音程正しく歌唱する。
	・青春と音楽 ・音楽理論	・音部記号・音の高さの変化・小節線・音名・調号・音符・休符・拍子・調・短調・曲の形式を理解する。
	・現代社会と音楽 ・民族と音楽	・興味ある音楽分野について調べ、他の生徒に紹介し、様々な音楽に親しむ。
2	・我が国の音楽	・三味線をはじめとするいろいろな楽器の奏法を知ったり、有名な曲を鑑賞して日本音楽を理解する。
	・西洋音楽史 ・人間と音楽	・年代順に特徴を掴みながら、有名な作曲家の曲を通して西洋音楽を学ぶ。
	・リズム練習	・ヒンデミットの両手リズム打ち等、リズム力を養う。
	・器楽アンサンブルの楽しみ	・リコーダーの基本的な奏法を学ぶ。 ・小グループで自主的に練習することを通してアンサンブルの楽しさを味わう。
3	・合唱の美しい響き	・自由に選曲して表現豊かに合唱する。
	・式　　歌	・卒業式歌を暗譜する。 「君が代」 「校歌」 「螢の光」

成績評価	ペーパーテストや技能のほかに、授業に対する意欲関心態度などを総合的に判断し評価する。
教科書 使用教材・副教材	教科書　改訂新版　高校生の音楽１

シラバス 芸術科（平成19年度）

学科	学年	科目[単位数]	担当者
全学科	１学年	美術Ｉ［２］	関野　真由

目標など
美術が人間生活に果たす役割を知り自己を見つめ国際理解や協調の精神を養う。

学期	単元名	学習内容
1	鉛筆デッサン 「かたちをとらえる」	・幾何形体を鉛筆と消しゴムでデッサンをする。
	静物画	・複数のモチーフを油絵具を使い写生する。
	作品鑑賞会	・他の生徒の作品を鑑賞する。
2	デザイン　「メッセージの伝達」	・清涼飲料水のパッケージをデザインし、プレゼンテーションを行う。
	自画像	・ゴッホやピカソなどの自画像を鑑賞する ・自画像デッサンを行う。 ・自画像を油彩で制作する。
	作品鑑賞会	・他の生徒の作品を鑑賞する。
	鑑賞「映像の展開」 「日本美術史」	・映像作品を鑑賞し、作品の背景や作者の心情を探る。 ・映像技術を学習する。 ・日本の代表的な作品を鑑賞し、時代背景や様式などを学習する。
3	立体「本物のようなにせもの」	・高村光太郎など有名作家の作品を鑑賞する。 ・スケッチを行う。 ・粘土による表現を行う。 ・製品に着彩する。
	作品鑑賞会	・他の生徒の作品を鑑賞する。
	鑑賞「現代美術史」	・世界で活躍している作家をとりあげ、作品を鑑賞する。

成績評価	出席状況、作品、授業態度などにより評価する。
教科書 使用教材・副教材	・教科書　美術Ｉ（光村）、油絵具、など

シラバス 芸術科（平成19年度）

学科	学年	科目[単位数]	担当者
全学科	１学年	書道Ⅰ［２］	三國　さとみ

目標など
　書道を通じて幅広い人間性を養い、芸術に親しむ心を育む。落ち着きある態度で授業に臨み、人格の形成を図る。

学期	単元名	学習内容
1	オリエンテーション	・書写と書道の関係について学習する。 ・書のジャンルについて学習する。 ・表現と鑑賞について学習する。 ・書道用語について理解する。
	生活の中の書	・硬筆の基本練習を行う。
	漢字の書 ・書体の移り変わり	・楷書の鑑賞と臨書を行う。 基本用筆の練習 九成宮醴泉銘の練習
2	漢字の書 ・楷書の古典を学ぼう	・楷書の鑑賞と臨書を行う。 孔子廟堂碑 牛けつ造像記 ・楷書の創作を行う。
	篆刻	・落款印を制作する。
	漢字の書 ・行書の古典を学ぼう ・創作しよう	・行書の鑑賞と、臨書を行う。 蘭亭序基本用筆の練習
3	仮名の書 ・仮名の成立 ・仮名の基本を学ぼう ・仮名の古典を学ぼう ・創作しよう ・仮名の美を学ぼう	・仮名の基本用筆について学習する。 ・仮名の単体について学習する。 ・連綿について学習する。 ・高野切第三種の鑑賞と臨書を行う。
	漢字仮名交じりの書 ・漢字仮名交じりの書の表現 ・創作しよう	・自分のイメージを表現する。 ・漢字と仮名を調和させて、表現する。
	創作	・一年の総まとめとして、学んだことを生かし、自由に表現する。

成績評価	授業に対する意欲関心態度と作品の採点を総合して成績を評価する。
教科書 使用教材・副教材	教科書　「高校書Ⅰ」光村図書出版

シラバス　英語科　（平成19年度）

学科	学年	科目[単位数]	担当者
全学科	１学年	オーラル・コミュニケーションⅠ[２]	高畠多恵

目標など
　日常生活の身近な話題について、英語を聞いたり話したりして、情報や考えなどを理解し、伝える基礎的な能力を養うとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。

学期	単元名	学習内容
1	Classroom English	①英語の授業で使用される教師からの指示や問いかけと、生徒の応答の例を理解する ②わからないことがあったときに教師に問いかける表現を理解する
	1.Meeting People	あいさつや自己紹介をする
	2.School Subject	学校の科目や時間割を説明する
	3.Telling the Way	道順を尋ねる・説明する
	4.After School	放課後の予定を話し合う
	5.How Do You Get to School?	通学方法を説明する
	6.In a Restaurant	レストランで注文をする
	7.What Did You Watch?	見たテレビ番組の印象を話す
2	8.On the Telephone	電話で友達を誘う
	9.Who Is It?	人物の特徴を説明する
	10.What's the Weather Like?	各地の天候を表現する
	11.School Events	学校行事の感想を話し合う
	12.Guess What It Is	物の形や色を説明する
	13.What's Special about Today?	日本の祝日や行事を説明する
	14.How Do You Do It?	物の使い方を説明する
3	15.How Do You Feel?	体の部位と体調を表現する
	16.Let's Go Shopping	買い物に役立つ表現を学ぶ
	17.Where Shall We Go?	旅行の計画を提案し説明する
	18.Going Abroad	海外旅行に役立つ表現を学ぶ
成績評価		出席状況、授業態度(ペアワークやグループワークへの参加状況や態度）、提出物、定期考査、小テストにより総合的に評価する。
教科書 使用教材・副教材		教科書　On Air Communication Ⅰ New Edition(開拓社) 副教材　On Air Communication Ⅰ Workbook（開拓社）

シラバス　家庭科（平成19年度）

学科	学年	科目［単位数］	担当者
全学科	３学年	生活技術［２］	渋谷　　香

目標など
人の一生と家族・福祉、消費生活、衣食住、家庭生活と技術革新などに関する知識と技術を体験的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付けさせる。

学期	単　元　名	学　　習　　内　　容
1	「　衣生活の技術　」 1　衣生活を考える 2　衣服材料を科学する 3　衣服をつくる 4　衣生活を管理する 5　これからの衣生活 ＊課題研究	1　心豊かで充実した衣生活を営むために必要な基礎的・基本的な知識や技術（衣服の機能・衣服の選択・衣服計画）を身につける。 2　衣服材料・繊維や布地の種類と性能・繊維製品の加工について理解する。 3　被服構成・着装とデザイン・被服製作実習に取り組み、衣生活の科学と文化に関心を持ち、意欲的に学習活動を行なう。被服製作実習「巻きエプロン」 4　衣服の管理・洗濯・仕上げ・保管・衣生活の健康と安全について理解し、その充実向上に必要な基礎的・基本的な知識や技術を身につける。 5　資源の有効利用の観点に立った被服計画の必要と管理・高齢社会における衣生活について理解する。 ＊死蔵衣服の有効な活用法を調べ、その再利用法を考える。
1	「　食生活の技術　」 1　食生活を考える 2　栄養と食品 3　何をどれだけ食べるか 4　安全に食べる 5　献立と調理 6　これからの食生活 ＊課題研究	1　食生活の現状と課題について理解する。 2　食生活を合理的に管理するために必要な栄養、食品、調理に関する基礎的・基本的な知識を身につける。 3　栄養素はどれだけ必要か・食品群別摂取量・栄養素の調べ方を理解する。 4　健康や安全を配慮した食生活の管理の必要性を理解する。 5　主な食品の特質や調理法などに関心を持ち、調理実習・実験に取り組む。 調理実習１「和食の献立」・調理実習２「洋食の献立」・ 調理実習３ 「中華の献立」 6　世界の食料・食の文化と伝承について理解する。 ＊　食品の表示について調べ、お店で実際どのように表示」されているか確認、理解する。
	「　住生活の技術　」 1　住生活を考える 2　快適に住まう 3　豊かな住生活を演出する 4　住空間を計画する 5　これからの住生活 ＊課題研究	1　人間と住まい・住まいと風土や文化について理解する。 2　安全な住まい・衛生的な住まい・住まいの維持と管理に関する基礎的・基本的な知識を身につける。 3　インテリアデザイン・ガーデニングとその手順を理解し、豊かな住生活を創造する。 4　ライフステージにより変わる住まい・住居の平面計画・ライフスタイルと個性ある住まいの計画を理解する。 5　住生活環境の整備・多種多様な住まいの種類を知り、これからの住生活とその環境を理解する。 ＊　自分の住むまちについて住みやすさを調べ、どのような工夫が必要か考える。
3	「　人生と家族・福祉　」 1　人生と家族 2　子どもの成長と生活 3　高齢者の生活と福祉 ＊課題研究	1　家族について考える・ライフコースを描く・制度からみた人の一生・自分のライフスタイルの創造を理解し、人生における家族の意味について考える。 2　乳幼児の心身の発達の特徴に関心を持たせ、発達段階や個性に応じて、親や家族が子どもとどのようにかかわったらよいか保育について考える・現代の子どもが育つ環境の変化・子どもの権利と福祉を理解する。 3　高齢者の心身の特徴と生活及び福祉について具体的に理解する。 ＊家族とは何か・自分にとって家族とはどのような存在なのか改めて考える。

成績評価	・出席状況、レポート、作品の提出、実習の取り組み状況や定期考査などにより判断する。
教科書 使用教材・副教材	教科書　　生活技術（教育図書） ２００６　生活ハンドブック　資料&成分表（第一学習社）

シラバス　工業科（平成１９年度）

学科　機械科	学年　　１学年	授業内容 ※　４班編成(10人/班)で実習を行う。 前期 １文鎮の製作とメッキ処理　２ネームプレートの製作　３旋盤Ⅰ　４メカ工作 後期 １ロボットカーの製作　２旋盤Ⅱ　３ＮＣ　４シーケンスⅠ 前後期、以上の項目をローテーションして実習を行う。
科目[単位数] 工業技術基礎［３単位］		
担当者　　十二　博 他		
目標など 工業に関する基礎的技術を実験･実習によって体験させ、各分野における技術への興味･関心を高め、工業の意義や役割を理解させるとともに工業に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。		

学期	単元名	学習内容
1	文鎮の製作とメッキ処理	真鍮の材料を旋盤という機械を使って加工し、文鎮を製作する。また、その作品を磨きメッキ処理を施す。
	ネームプレートの製作	自分でネームプレートをデザインし、発砲スチロールで型を作り、アルミニウムを流し込み作品を製作する。
	旋盤Ⅰ	測定の基礎や旋盤操作について学習し、切削加工に取り組む。
2	メカ工作	相撲ロボット・キットを製作し、歯車減速機構やモータについて学習する。
	ロボットカーの製作	オリジナルロボットの製作を通し、ケガキ作業、穴あけ、折り曲げ、ハンダ付けなどに取り組む。
	旋盤Ⅱ	旋盤操作について理解を深め、やや複雑な切削加工に取り組む。
3	ＮＣ	数値制御について学習し、ＮＣフライス盤でイニシャルを描かせる。
	シーケンスⅠ	プログラマブルコントローラーを用いた制御実習に取り組む。
成績評価		実習担当者で協議し、作品、実習態度・意欲、レポート等により評価を行う。
教科書 使用教材・副教材		実習テキスト

シラバス　工業科（平成１９年度）

学科　電子機械科	学年　　１学年	授業内容 ※　４班編成(10人/班)で実習を行う。 前期 １文鎮の製作とメッキ処理　２溶接Ｉ　３ネームプレートの製作　４メカ工作 後期 １ロボットカーの製作　２情報処理Ｉ　３旋盤Ｉ　４シーケンスＩ 前後期、以上の項目をローテーションして実習する。
科目[単位数] 工業技術基礎［３］		
担当者　　中村雄一 他		
目標など 工業に関する基礎的技術を実験･実習によって体験させ、各分野における技術への興味･関心を高め、工業の意義や役割を理解させるとともに工業に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。		

学期	単元名	学習内容
1	文鎮の製作とメッキ処理	真鍮の材料を旋盤という機械を使って加工し、文鎮を製作する。また、その作品を磨きメッキ処理を施す。
	溶接Ｉ	アーク溶接とガス溶接の技術の習得に取り組む。
	ネームプレートの製作	自分でネームプレートをデザインし、発砲スチロールで型を作り、アルミニウムを流し込み作品を製作する。
2	メカ工作	相撲ロボット・キットを製作し、歯車減速機構やモータについて学習する。
	ロボットカーの製作	オリジナルロボットの製作を通し、ケガキ作業、穴あけ、折り曲げ、ハンダ付けなどに取り組む。
	情報処理Ｉ	Ｃ言語の基礎を学習し、簡単なプログラムに取り組む。
3	旋盤Ｉ	測定の基礎や旋盤操作について学習し、切削加工に取り組む。
	シーケンスＩ	プログラマブルコントローラーを用いた制御実習に取り組む。
成績評価		実習担当者で協議し、作品、実習態度・意欲、レポート等により評価を行う。
教科書 使用教材・副教材		実習テキスト

シラバス　工業科（平成１９年度）

学科	学年
電気情報科	１学年

科目[単位数]
工業技術基礎　[３]

担当者
浅井　　実、篠原俊一郎、金山奈緒子、亀島　正吉、
村田　敏春、堀田　　博、平井百合子、越　　隆典

目標など
工業に関する基礎的技術を実験・実習によって体験させ、各分野における技術への興味・関心を高め、工業の意義や役割を理解させ、工業に関する広い視野を養い、工業の発展を図る意図的な態度を育てる。

授業内容
(1)オリエンテーション
(2)基本工具の取り扱い
(3)各種測定器の取り扱い
(4)直流回路
(5)プレゼンテーション
(6)知的財産権
(7)テスターの製作と取り扱い
(8)パソコン組立とセットアップ
(9)論理回路
(10)蛍光灯の製作
(11)CAD
以上の項目を８班編成で実施する。(6)知的財産権では、弁理士の方に外部講師として講義をしていただく。

学期	単元名	学習内容
1	オリエンテーション	1　実習の心構えや安全に対する意識を高め、年間の実習項目や評価方法を知る。 2　各実習施設の案内・説明および　機器類の説明を受ける。 3　報告書(レポート)の書き方、グラフの描き方を説明を受け、実習終了からレポート提出までの流れを理解する。
	基本工具の取り扱い	1　ノギスの取り扱い方を理解し、実際に測定する。 2　ダイスの取り扱い方を理解し、実際に加工する。 3　タップの取り扱い方を理解し、実際に加工する。
	各種測定器の取り扱い	1　テスターで何ができるのか、機能を理解する。 2　テスターの正しい取り扱い方を理解する。 3　抵抗器のカラーコードの読み方および計算を理解する。 4　接頭語の意味と種類を理解し、換算する。 5　目盛りの正しい読み方を体得し、有効数字の取り扱いを理解する。 6　抵抗・直流電流・直流電圧・交流電圧を測定する。 7　電流計・電圧計で測定を行う。 8　オシロスコープを使って正弦は交流と方形波の波形測定をする。
	直流回路	1　オームの法則に関する理論を理解する。 2　電流計及び電圧計の接続方法を理解する。 3　電圧及び電流の測定を行う。 4　電流及び抵抗の測定を行う。 5　電位降下法による抵抗値の求め方を理解し、実際に測定を行う。 6　ブリッジ回路による抵抗値の求め方を理解し、実際に測定を行う。 7　回路計による抵抗値の求め方を理解し、実際に測定を行う。
	プレゼンテーション	1　総合実習室利用のルールの説明を受け守る。 2　Windowsアプリケーションの起動や終了など基本操作を理解する。 3　プレゼンテーションの役割と効果について理解する。 4　Power Pointを使ってスライドのデザインを行う。 5　スライドショーの実行方法を理解し、実際に実行してみる。 6　ファイルの管理と取り扱い方法を理解する。
	知的財産権	1　特許の必要性と歴史を理解する。 2　特許の種類を知り、それぞれの違いを理解する。 3　特許の取り方(申請方法)を順を追って理解する。 4　身近な特許例を挙げて理解を深める。 5　特許庁ホームページを使って、特許検索を行い、実際に特許を申請する流れを体験する。
2・3	テスターの製作と取り扱い	1　テスターの基本原理である分流回路・分圧回路・整流回路について理解する。 2　ハンダ付けの良い例と悪い例を理解し、正しいハンダ付けの手順を習得する。 3　テスターを製作する。 4　完成したテスターが正しく動作するかチェックする。 5　製作したテスターを使って抵抗値・電圧・電流の測定を行う。
	パソコンの組み立てとセットアップ	1　パソコンの機能と構成を理解する。 2　各構成部品の働きと接続方法を理解する。 3　パソコンを組み立てる。 4　OSとは何かを理解する。 5　組み立てたパソコンにOSをインストールする。 6　パソコンの動作を確認する。
	論理回路	1　論理回路の働きを理解する。 2　ICの取り扱い方やピン番号の読み方を理解する。 3　ブレッドボードの使い方や配線方法を理解する。 4　基本回路(AND、OR、NOT、NAND、NOR、EX-OR)の動作を確認する。 5　複合回路の配線を行い、入出力実験を行う。
	蛍光灯の製作	1　工作で使用する電子部品の働きと取り扱い方を理解する。 2　ペットボトルの加工を行う。 3　底板の加工（木工）を行う。 4　プリントパターンの作成を行う。 5　プリント基板の加工と部品のハンダ付けを行う。 6　蛍光灯の組立と動作確認を行う。
	CAD	1　CADの特徴と用途を理解させる。 2　CANDY8の起動と操作方法を習得させる。 3　自宅案内図の作図を通して基本的なコマンドの使い方を習得させる。 4　締め付け金具の作図を通してレイヤーの概念や応用的なコマンドを習得させる。
成績評価		日々の学習活動の観察、実習報告書の内容と提出状況、完成作品、自己評価を通して評価する。
教科書 使用教材・副教材		教科書　工業技術基礎（実教出版）、自作テキスト

シラバス 工業科（平成１９年度）

学科	学年	授業内容
機械科	１学年	前期：資格取得 計算技術検定３級 後期：資格取得 情報技術検定３級 危険物取扱者試験丙種
科目[単位数] 課題研究[１]		
担当者 高久直樹　篠原俊一郎 井川忠司　竹橋剛志		
目標など ・計算技術検定３級、情報技術検定３級に合格する。 ・丙種危険物取扱者試験受験のための準備学習をする。 ・問題解決能力や計画的で自発的な学習態度を身に付ける。		

学期	単元名	学習内容
1	・検定試験の概要 ・受検の心構え ・学習の進め方	検定試験の概要を理解し、学習の進め方、計画の立て方についての説明を受ける。
	・四則計算 ・関数計算 ・実務計算 ・過去問題演習	例題や過去問題を解きながら、計算機の基本的な操作方法、関数の意味、実務計算の効率的で正確な計算方法などを学習し、過去問題を解きながら、検定合格を目指す。
	・数の表し方 ・論理回路とコンピュータの基本回路 ・コンピュータの役割および構成と基本動作	２進数、１０進数、１６進数などの数の表し方、AND、NOT、ORといった基本的な論理回路の働きとその組み合わせを学び、コンピュータの基礎となるハードウェアの学習を行う。さらに、パソコンをはじめとするコンピュータの基本構成を学習する。
2	・ソフトウェア ・コンピュータ制御 ・ネットワークとマルチメディア・流れ図 ・ＢＡＳＩＣ ・過去問題演習	センサ、アクチュエータ、インターフェイスの基礎を学び、コンピュータ制御の概要を学習する。また、ネットワークの構成やマルチメディア、インターネットについて学習を行う。さらに、コンピュータに仕事をさせるためのプログラムの作成方法やBASICによるプログラミングの学習を行う。最後に、学習のまとめとして検定試験の過去問題に取り組んで検定合格を目指す。
3	・試験の概要 ・受験の方法 ・学習の進め方	検定試験の概要を理解し、学習の進め方、計画の立て方についての説明を受ける。
	・燃焼、消火に関する基礎知識 ・危険物の性質、並びにその火災予防および消火の方法	燃焼と消火の基礎知識について学習を行う。また、灯油、軽油、ガソリンなどの危険物の性質を学習し、消火の方法にはどんなものがあり、どのような特徴があるのかを学習する。
成績評価		検定試験の得点、演習問題の得点、課題提出、授業中の態度等の状況を総合して成績評価を行う。
教科書 使用教材・副教材		関数電卓取扱説明書と練習問題集（カシオ） 丙種危険物取扱者受験教科書（向学院）

シラバス 工業科（平成１９年度）

学科	学年	授業内容
電子機械科	１学年	
科目[単位数]		前期：資格取得
課題研究[１]		計算技術検定３級
担当者		後期：資格取得
南三樹雄　高久直樹 角井勇人　川平陽子		情報技術検定３級 危険物取扱者試験丙種
目標など ・計算技術検定３級、情報技術検定３級に合格する。 ・丙種危険物取扱者試験受験のための準備学習をする。 ・問題解決能力や計画的で自発的な学習態度を身に付ける。		

学期	単元名	学習内容
1	・検定試験の概要 ・受検の心構え ・学習の進め方	検定試験の概要を理解し、学習の進め方、計画の立て方について説明を受ける。
	・四則計算 ・関数計算 ・実務計算 ・過去問題演習	例題や過去問題を解きながら、計算機の基本的な操作方法、関数の意味、実務計算の効率的で正確な計算方法などを学習し、検定合格を目指す。
	・数の表し方 ・論理回路とコンピュータの基本回路 ・コンピュータの役割および構成と基本動作	２進数、１０進数、１６進数などの数の表し方、AND、NOT、ORといった基本的な論理回路の働きとその組み合わせを学び、コンピュータの基礎となるハードウェアの学習を行う。さらに、パソコンをはじめとするコンピュータの基本構成を学習する。
2	・ソフトウェア ・コンピュータ制御 ・ネットワークとマルチメディア ・流れ図 ・ＢＡＳＩＣ ・過去問題演習	センサ、アクチュエータ、インターフェイスの基礎を学び、コンピュータ制御の概要を学習する。また、ネットワークの構成やマルチメディア、インターネットについて学習を行う。さらに、コンピュータに仕事をさせるためのプログラムの作成方法やBASICによるプログラミングの学習を行う。最後に、学習のまとめとして検定試験の過去問題に取り組み、検定合格を目指す。
3	・試験の概要 ・受験の方法 ・学習の進め方	検定試験の概要を理解し、学習の進め方、計画の立て方について説明を受ける。
	・燃焼、消火に関する基礎知識 ・危険物の性質、並びにその火災予防および消火の方法	燃焼と消火の基礎知識について学習する。また、灯油、軽油、ガソリンなどの危険物の性質を学習し、消火の方法にはどんなものがあり、どのような特徴があるのか学習する。
成績評価		検定試験の得点、演習問題の得点、課題提出、授業中の態度等の状況を総合して成績評価を行う。
教科書 使用教材・副教材		関数電卓取扱説明書と練習問題集（カシオ）丙種危険物取扱者受験教科書（向学院）

シラバス 工業科（平成１９年度）

学科	学年
電気情報科	１学年

科目[単位数]
課題研究[２]

担当者
西田　信孝、　岩河　隆一、　加藤　敏秀、
亀島　正吉、　村田　敏春、　堀田　　博、
平井百合子、　越　　隆典

目標など
各自で目標を設定し、工業に関する基礎的な技術を習得し工業技術への関心を高め、検定合格や資格取得に積極的に取り組ませるなかで、各自の適正を見いだし、無理なく専門の学習に進めるようにする。

授業内容
［１］ オリエンテーション
［２］ 工業数理　（習熟度別に４班に編制）
［３］ 検定講習（習熟度別に４班に編制）
［４］ 実習１　（４班編成でローテーション）
(1) 電気工事１
(2) プログラミング
［５］ 実習２　（４班編成でローテーション）
(1) 電気工事２
(2) ワープロ
(3) 表計算

学期	単元名	学習内容
1	オリエンテーション	課題研究の心構えおよび実施項目、評価方法の説明を受け授業に備える。
	工業数理	単位の換算や平方根・三角関数など工業高校で専門科目を学習するために必要な数学を学ぶ。
	検定講習	計算技術検定３級の受検に向けて、四則、関数、実務の３分野ごとにポケコンを用いて計算する手法について学習する。
2	電気工事１	第２種電気工事士試験の実技試験を想定した屋内配線の実習を行う。
	プログラミング	情報技術検定３級の受検を想定したＣ言語のプログラミング演習を行う。
3	電気工事２	第２種電気工事士試験の筆記試験を想定した学習を行う。
	ワープロ	Ｗｏｒｄを使って、文章入力や書式、作表などワープロ検定３級程度の文書作成の実習を行う。
	表計算	Ｅｘｃｅｌを使って、データ入力、関数計算、絶対番地・相対番地、グラフ作成など表計算検定３級程度の表計算実習を行う。

成績評価	各観点・研究発表・完成作品及び報告書内容を総合的に考慮し成績評価とする。
教科書 使用教材・副教材	共通なものは使用しないが、各生徒のテーマに合わせた教材を用いる。

シラバス 工業科（平成19年度）

学科　機械科	学年　２学年	授業内容 前期：資格取得 危険物取扱者試験丙種 後期：資格取得 危険物取扱者試験乙種４類 機械製図検定
科目[単位数]　課題研究［１］		
担当者 十二　博　数井正広 井川忠司　竹橋剛志		
目標など ・危険物取扱者試験丙種に合格する。 ・危険物取扱者試験乙種4類に合格する。 ・機械製図検定受検のための準備学習をする。 ・問題解決能力や計画的で自発的な学習態度を身に付ける。		

学期	単元名	学習内容
1	・検定試験の概要 ・受検の心構え ・学習の進め方	検定試験の概要を理解し、学習の進め方、計画の立て方についての説明を受ける。
	１．燃焼及び消火に関する基礎知識 ２．危険物の性質、並びにその予防及び消火の方法 ３．危険物に関する法令	危険物取扱者丙種の範囲における燃焼の基礎知識、消火方法を学び、取り扱う危険物の性質、取り扱い、消火の方法を学習する。さらに、危険物に関する法令について学習し、過去問題を解きながら検定試験合格を目指す。
2	１．物理学と化学の基礎知識 ２．危険物の性質、並びにその予防及び消火の方法 ３．危険物に関する法令	危険物取扱者乙種４類の範囲における燃焼の基礎知識、消火方法を学び、取り扱う危険物の性質、取り扱い、消火の方法を学習する。さらに、危険物に関する法令について学習し、過去問題を解きながら検定試験合格を目指す。
3	１．投影図について ２．立体的な図示方法について	製図検定に主題される投影図と立体的な図示方法について、過去問題を繰り返し解答を行う。
成績評価		検定試験の得点、演習問題の得点、課題提出、授業中の態度等の状況を総合して成績評価を行う。
教科書 使用教材・副教材		丙種危険物取扱者受験教科書（向学院）、危険物取扱者試験例題集丙種（全国危険物安全協会） 乙４類危険物取扱者受験教科書（向学院）、危険物取扱者試験例題集乙種第４類（全国危険物安全協会）、プリント

シラバス　工業科（平成19年度）

学科　　電子機械科	学年　　２学年	授業内容
科目[単位数]　　課題研究[１]		前期：資格取得 危険物取扱者試験丙種 後期：資格取得 危険物取扱者試験乙種４類 機械製図検定
担当者 十二　博　　中村雄一 堀井寿朗　　角井勇人		
目標など ・危険物取扱者試験丙種に合格する。 ・危険物取扱者試験乙種4類に合格する。 ・機械製図検定受検のための準備学習をする。 ・問題解決能力や計画的で自発的な学習態度を身に付ける。		

学期	単元名	学習内容
1	・検定試験の概要 ・受検の心構え ・学習の進め方	検定試験の概要を理解し、学習の進め方、計画の立て方についての説明を受ける。
	１．燃焼及び消火に関する基礎知識 ２．危険物の性質、並びにその予防及び消火の方法 ３．危険物に関する法令	危険物取扱者丙種の範囲における燃焼の基礎知識、消火方法を学び、取り扱う危険物の性質、取り扱い、消火の方法を学習する。さらに、危険物に関する法令について学習し、過去問題を解きながら検定試験合格を目指す。
2	１．物理学と化学の基礎知識 ２．危険物の性質、並びにその予防及び消火の方法 ３．危険物に関する法令	危険物取扱者乙種４類の範囲における燃焼の基礎知識、消火方法を学び、取り扱う危険物の性質、取り扱い、消火の方法を学習する。さらに、危険物に関する法令について学習し、過去問題を解きながら検定試験合格を目指す。
3	１．投影図について ２．立体的な図示方法について	製図検定に主題される投影図と立体的な図示方法について、過去問題を繰り返し解答を行う。
成績評価		検定試験の得点、演習問題の得点、課題提出、授業中の態度等の状況を総合して成績評価を行う。
教科書 使用教材・副教材		丙種危険物取扱者受験教科書（向学院）、危険物取扱者試験例題集丙種（全国危険物安全協会） 乙４類危険物取扱者受験教科書（向学院）、危険物取扱者試験例題集乙種第４類（全国危険物安全協会）、プリント

シラバス　工業科（平成19年度）

学科	学年	授業内容
機械科	３学年	前期：資格取得 （機械製図検定に向けての学習） 後期：課題研究 課題研究のテーマを設定し，各班ごとに製作する。 メカトロコース：ロボット製作等を行う。（後期）
科目[単位数] 課題研究[２]		
担当者 南三樹雄　　数井正広 井川忠司　　竹橋剛志		
目標など 工業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。		

学期	単元名	学習内容
1	機械製図検定に向けての学習 １　立体図から投影図 ２　投影図から立体図 ３　断面図 ４　寸法記入法 ５　はめあい,各種記号 ６　機械部品の図示方法 ７　製作図	機械製図検定に出題される立体図、投影図の過去問題の演習を行う。また、断面図示の方法について学習する。さらに、寸法記入の基本的な決まりと方法を学び、はめあい各種記号の基礎知識を身につける。過去問題を繰り返し解き、機械製図検定合格を目指す。
2	・課題研究テーマの設定 ・課題研究テーマの具現化に向けての取り組みを行う。 ・アイデアを図面化する。 ・設計図、製作図の作成 ・試作製作	一班１０～６人程度のグループに分かれて、班毎に決めたテーマに沿った研究・製作活動を行う。班員の自由な発想で学習を行う。班員同士の共同作業により、研究を進行する。
3	課題研究 課題研究発表大会	研究活動の内容を論文形式でまとめ、下級生の前で発表会を行う。第三者に理解を促すものになるよう、発表の内容や方法の工夫を行う。研究内容のまとめ方を学習する。
成績評価		資格取得,課題に取り組む姿勢、報告書、製作品、研究発表、出席状況を総合的に判断して評価する。
教科書 使用教材・副教材		自作テキスト他

シラバス 工業科（平成19年度）

学科	学年	授業内容
電子機械科	３学年	１．資格取得 機械製図検定への取り組み ２．校内ロボット競技大会用ロボットの製作 （6班編成で各班ごとにロボットを製作する） 校内ロボット競技大会の内容・規則の設定 〃　用ロボットの設計・製作 ３．研究成果の発表 ４．校内ロボット競技大会
科目［単位数］ 課題研究［２］		
担当者 高久直樹　中村雄一 堀井寿郎　角井勇人		
目標 資格取得や校内ロボット競技大会用ロボットの製作を通して，課題を設定し，その課題の解決を図る学習を通して，専門的な知識と技術の深化，総合化を図るとともに，問題解決の能力や自発的，創造的な学習態度を育てる。		

学期	単元名	学習内容
1	機械製図検定に向けての学習 1. 投影図 2. 寸法記入法 3. 公差・面の肌 4. 機械要素の製図	機械製図検定に出題される立体図、投影図の過去問題の演習を行う。また、断面図示の方法について学習する。さらに、寸法記入の基本的な決まりと方法を学び、はめあい各種記号の基礎知識を身につける。過去問題を繰り返し解き、機械製図検定合格を目指す。
2	校内ロボット競技大会用ロボットの製作 1. 競技内容の検討 2. ロボットの設計 3. ロボットの製作 4. 競技台の製作	校内ロボット競技大会用ロボットについて競技内容を検討し、ルールを理解する。その後、ロボットに必要な動きと機能を検討し、ロボットを設計する。班員同士の共同作業により、製作研究を進行する。
3	校内ロボット競技大会用ロボット製作及び発表と競技大会 1. ロボットの製作 2. 研究成果の発表 (プレゼンテーションの作成) 3. 競技大会	完成したロボットで競技大会を実施する。競技開始前には各班のロボットの特徴や製作の過程、工夫点などの発表（プレゼンテーション）を行う。競技においては優勝することを目標とし、ロボット機構の改善や操作方法の熟達、戦法の分析や工夫を行う。
成績評価		資格取得,課題に取り組む姿勢、報告書、製作品、研究発表、出席状況を総合的に判断して評価する。
教科書 使用教材・副教材		機械製図(実教)など

シラバス 工業科（平成19年度）

学科	学年	授業内容
電気科	３学年	課題研究では、班単位で自主的にテーマを設定し、調査・研究・製作・発表を行う。 事前調査 テーマ決定 発表（中間・最終） 報告書作成
科目［単位数］ 課題研究［１］		
担当者 篠原　俊一郎　　西田　信孝 加藤　敏秀　　開坂　俊哉 村田　敏春　　堀田　博		
目標など 座学で学んだ知識を活かし、工業に関する課題を自らが設定し、設計・製作を通じて専門的な知識と技術を身につけさせる。また、問題解決に取組む姿勢、学習意欲、創造性などを育成する。		

学期	単元名	学習内容
1	事前調査活動 資料収集 討議 テーマ決定 調査結果から製作する機器の概要を決定	班編成及び研究テーマの決定 ・生徒個々人の希望する研究テーマを集約し、班を編成する。 （最終的に担当教員と話合いをし、研究テーマを決定する。） 研究計画の立案 ・全体の構想を練る。 ・設計を行う。 ・必要な部品を選択し、購入部品を決める。
2	製作と研究 試作 改良・改善	製作及び改良 ・設計した図面を元に製作する。 ・問題点があれば改良をする。 ・完成品の検査を行い、必要に応じて改良を加える。
3	発表準備 発表原稿・データ作成 発表大会	課題研究発表 ・１年間の成果をまとめる。 ・プレゼンテーションによる発表の準備を行う。 ・課題研究発表会で、研究の成果を発表する。 ・研究内容をレポートにまとめ提出する。

成績評価	各観点・研究発表・作品及び報告書内容を総合的に考慮し成績評価とする。
教科書 使用教材・副教材	製作指導書・解説書・規格表等、テーマに応じ、適宜選択する。

シラバス　工業科（平成19年度）

学科	学年	授業内容
情報技術科	３学年	課題研究においては、各自が自主的にテーマを設定し、調査・研究・製作・発表を行う。 事前調査 テーマ決定 調査・研究・製作 発表（中間、最終） 報告書作成
科目［単位数］ 課題研究［３］		
担当者 浅井　　実, 草嶋　伸一, 金山奈緒子 亀島　正吉, 越　　隆典, 平井百合子		
目標 工業に関する基礎的・基本的な学習の上に立って、工業に関する課題を生徒自らが設定し、その課題を解決する学習を通じて、専門的な知識と技術の深化、統合化を図るとともに問題解決に取り組む姿勢、学習意欲、創造性などを育成する。		

学期	単元名	学　習　内　容
1	事前調査活動 資料収集 討議 テーマ決定 試作	事前調査 参考資料や参考ＨＰを利用して、研究内容を選定・調査する。 テーマ決定 研究テーマを決定し、企画書を完成する。 調査・研究・製作 研究内容の完成を目指し、必要な調査をし、作品の製作を行う。
2	製作と研究 改良・改善 課題研究発表準備 発表原稿・データ作成	調査・研究・製作 研究内容の完成を目指し、必要な調査をし、作品の製作を行う。 中間発表 調査・研究・製作をしてきた現状についてまとめ、プレゼンテーションソフトなどを利用し中間発表を行う。 調査・研究・製作 中間発表で得た指摘（指示）や今後の課題を検討し、研究内容の完成を目指し、必要な調査をし、作品の製作を行う。 最終発表 調査・研究・製作をしてきた研究内容をまとめ、プレゼンテーションソフトなどを利用し最終発表を行う。
3	改良・改善 報告書作成	調査・研究・製作 最終発表で得た指摘（指示）を参考に研究内容の完成を目指し、必要な調査をし、作品の製作を行う。 報告書作成 研究内容についてレポートにまとめ提出する。また、完成した作品の提出をする。
成績評価		日々の学習活動の観察、実習報告書の内容、研究発表（中間・最終）、完成作品自己評価を通じて評価する。
教科書 使用教材・副教材		製作指導書・解説書・規格表等、テーマに応じ、適宜選択する。

シラバス　工業科　（平成19年度）

学科	学年	科目［単位数］	担当者
機械科・電子機械科	１学年	情報技術基礎　［２］	岩河　隆一

目標など
　社会における情報化の進展と、情報の意義や役割を理解させるとともに、情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得させ、情報および情報手段を活用する能力と態度を育てる。

学期	単元名	学　習　内　容
1	第1章 情報化の進展と産業社会	・情報とその処理の仕方について学び、高度情報化社会における日常生活と情報の関わりについて考える。 ・日常生活におけるコンピュータの利用についてまとめ、これからのネットワークについて考える。 ・マンマシンインターフェースについて学んだ上で、コンピュータを扱う際の健康管理について考える。
	第4章 ハードウェア	・2進数や16進数における数の表し方や変換方法、2進数の加算・減算方法について学ぶ。 ・基本論理回路および応用論理回路について学び、その動作原理について考察する。 ・コンピュータの基本構成について学び、各名称や各装置の動作についてまとめる。
2	第3章 プログラミング	・プログラム言語について分類するとともに、プログラムが完成するまでの流れを知る。 ・基本的な流れ図の記号を知り、流れ図の作成の仕方を学習する。 ・BASIC言語でプログラムを作成するための基本的な手順について学習する。
	第2章 ソフトウエア	・オペレーティングシステムの役割とその操作方法を学ぶ。 ・アプリケーションソフトウエアの例として、文書処理ソフトウエア、表計算ソフトウエア、データベースソフトウエアの概要を学ぶ。
	第5章 計測と制御	・コンピュータに外部機器を接続する際に必要となるインタフェースについて学び、アナログ－ディジタル変換について理解する。 ・自然界の物理量をコンピュータで計測する方法、コンピュータの信号により外部機器を制御する方法について学ぶ。
3	第6章 通信とインターネット	・情報を送ったり、受け取ったりするために必要となる基本的な考え方や仕組みについて知る。 ・ネットワークの仕組みやネットワークを構成する機器について学ぶ。 ・インターネットの仕組みと利用の際のエチケットについて理解する。 ・Webページの仕組みについて学ぶ。
	第7章 コンピュータとその活用	・コンピュータの歴史とその特徴について知る。 ・情報化社会における影の側面とその対応について理解を深める。 ・情報社会におけるモラルと情報の管理について学習する。
成　績　評　価		日々の学習活動の観察、コンピュータ実習へ取り組む姿勢と出力結果、自己の評価、ノート提出、参考プリントの取り組む姿勢と提出状況、小テスト、定期考査を通して評価する。
教科書 使用教材・副教材		教科書　情報技術基礎（コロナ社）、 副教材　情報技術検定問題集3級BASIC（実教出版）

シラバス　工業科（平成１９年度）

学科	学年	科目[単位数]	担当者
電気情報科	１学年	情報技術基礎　［２］	亀島　正吉

目標など
　社会における情報化の進展と、情報の意義や役割を理解させるとともに、情報技術に関する基礎的な知識と技術を習得させ、情報および情報手段を活用する能力と態度を育てる。

学期	単元名	学　習　内　容
1	第1章 現代社会とコンピュータ 1 情報と生活 2 コンピュータの特徴 3 ハードウェアとソフトウェア 4 コンピュータの利用 5 コンピュータの基本構成 6 情報化社会の進展とモラル	1 現代の情報の意味と情報化社会について学ぶ。 2 コンピュータの担う役割をふまえたコンピュータの特徴について学ぶ。 3 ハードウェアとソフトウェアの違い、また区別について学ぶ。 4 現在のコンピュータの利用技術を具体例を交え学ぶ。 5 コンピュータの基本構成になる5大装置について学ぶ。 6 現在のコンピュータやコンピュータネットワークの利用においてのモラル等を学ぶ。
	第2章 コンピュータの基本動作 1 基本的な操作 2 コンピュータの使用と健康	1 コンピュータの起動と終了、キーボード、マウスの操作方法、記憶装置の利用方法について学ぶ。 2 コンピュータ作業を行うにあたっての健康被害について学び、その対処方法について学ぶ。
	第7章 ハードウェア 1 データの表し方 2 論理回路の基礎 3 処理装置の構成と動作 4 周辺装置	1 コンピュータで扱うデータの表し方、2進数、10進数、16進数の変換や2進数での加減乗除について学ぶ。 2 コンピュータが演算に使用する基本論理回路（AND、OR、NOT）に加えNAND、NOR回路の動作について学ぶ。また、その回路を応用したフリップフロップ回路についても学ぶ。 3 コンピュータの命令の処理の仕方、処理されるデータの流れについて学ぶ 4 各種入出力装置の働きと規格、各種補助記憶装置についての動作と規格について学ぶ
2	第3章 ソフトウェア 1 ソフトウェアの基礎 2 プログラム作成に必要なソフトウェア 3 アプリケーションソフトウェア	1 ソフトウェアの分類、オペレーティングシステムの目的と種類について学ぶ。また、そのオペレーティングシステムの基本操作について学ぶ。 2 プログラム開発に必要なソフトウェアと作業手順について学ぶ。 3 ワープロソフトや表計算ソフト、図形・画像処理ソフトの特徴と利用方法について学ぶ。
	第4章 BASICによるプログラミング(基礎) 1 プログラム言語 2 プログラムの作り方 3 簡単なプログラム 4 四則計算のプログラム 5 文字データの取り扱い 6 データの読み取り 7 分岐処理 8 繰り返し処理	1 現在プログラム開発に利用されている各種プログラミング言語の特徴とその種類について学ぶ 2 流れ図をつくり、プログラムの組み方、考え方について学ぶ。 3 ～８C言語と重複するため概略のみ学習。
	第5章 BASICによるプログラミング(応用) 1 サブルーチン 2 配列処理 3 ファイル処理 4 グラフィック	1 ～４C言語と重複するため概略のみ学習。
	第6章 Cによるプログラミング 1 Cの特徴 2 四則計算のプログラム 3 分岐処理 4 繰り返し処理 5 配列 6 関数	1 コンパイル言語であるC言語の特徴と簡単な画面表示プログラムについて学ぶ。 2 四則演算、三角関数計算を行うプログラムの作り方について学ぶ。また、文字データの取り扱い方や文字データを扱うプログラムの記述の仕方について学ぶ。 3 If文による分岐処理の考え方と分岐処理のプログラムの記述の仕方について学ぶ。 4 For文による繰り返し処理の考え方と繰り返し処理のプログラムの記述の仕方について学ぶ。 5 配列の利便性について学び、その配列を用いたプログラムの記述の仕方について学ぶ。 6 プログラム作成において、モジュール化を行い同じことを何度も使用することが考えられる場合のプログラムの考え方と記述の仕方について学ぶ。
3	第8章データ通信・マルチメディア・コンピュータ制御 1 データ通信とネットワーク 2 マルチメディアの活用 3 コンピュータ制御	1 コンピュータのでデータ通信の概要と種類を学び、その物理的な接続方法を学ぶ。また、論理的な接続の種類についても学ぶ。 2 音声、画像、動画のディジタル化技術について学ぶ。また、その利用例についても学ぶ。 3 コンピュータによるコンピュータ以外のハードウェアの制御の原理について学ぶ。
	第9章 コンピュータの歴史と活用 1 コンピュータの発達 2 産業界におけるコンピュータの利用	1 コンピュータに使用される集積回路の発達の歴史について学ぶ。 2 現在の産業界でコンピュータが、どのように利用されているかを学ぶ。
	第10章 情報の管理 1 プログラムおよびデータの保全と保守 2 コンピュータシステムの安全保護 3 情報の保全と安全	1 知的財産権について学び、ソフトウェアの利用者が守らなければならない規則について学ぶ。また、データの保全と保守について学び、バックアップの必要性について学ぶ。 2 コンピュータネットワークにおける犯罪について学び、その対処方法について学ぶ。 3 暗号化について学ぶ。また、コンピュータネットワークを利用するさいのマナーについて学ぶ。
成　績　評　価		日々の学習活動の観察、コンピュータ実習へ取り組む姿勢と出力結果、自己の評価、ノート提出、参考プリントの取り組む姿勢と提出状況、小テスト、定期考査を通して評価する。
教科書 使用教材・副教材		教科書　情報技術基礎新訂版（実教出版）